



会場には 3 億 5 千万円で造られた  
超高級ソファが

## 日本銀行鳥取事務所が 70 周年 鳥取は「日本銀行券所縁の地」

日本銀行鳥取事務所（鳥取市栄町四〇二、大山陽久所長）が、鳥取事務所開設 70 周年を記念して 10 月 14 日から 16 日の三日間、合銀鳥取営業本部ビル 2 階ギャラリーで記念展示会を開催した。全国の多くの日銀事務所が終戦前に開設されたということことで、今年はその多くで 70 周年を迎えるが、記念展示会をするのは鳥取事務所のみ。

宇倍神社（鳥取市国府町）の協力で展示された古い紙幣の実物を見ると、鳥取と日本銀行券との深い縁を知ることができる。

明治 32 年、全国で初めて紙幣の図柄に登場した神社が実は宇倍神社（甲五圓券、以降 3 紙幣に登場）。同神社が祀る武内宿禰像も、明治 22 年発行の改造毫圓券をはじめ、聖徳太子に次ぐ同数、6 紙幣の図柄として採用されている。

展示会では、図柄入り紙幣の「本物」が展示されたほか、藩札や小判、金塊等のレプリカ展示もある。

また、山陰合同銀行所有で昔、出納の際などに実際に使われていたという道具類も展示され、特に若い世代の来場者らの関心

を集めていた。

そのほかパネル展示など、お金にまつわる様々なストーリーを知ることもでき、来場者らの好奇心を満たしていた。

会場でひときわ注目を集めたのが、使用済みの本物の銀行券を裁断し、その屑、実際に 3 億 5 千万円分で造られたという「超高級ソファ」。

隣にはパック包装された 1 億円相当の模擬紙幣があり、1 億円の重みを確かめながら「すわり心地が最高」というソファに座り、記念撮影をする光景が繰り広げられていた。

「このような機会に、普段縁遠いと思われている日本銀行が、実は身近な場所だという事を知つていただきたい」。

70 周年を迎えた同行鳥取事務所では松江支店の下、地域の銀行へ現金を供給、流通させる役割を担っているほか、県内企業や公的機関との様々なコミュニケーションを通じ、地域の実情把握に努めている。

このたびの展示会は、宇倍神社や地元銀行など、多くの協力で実現したという。同行鳥取事務所の大山所長は、「鳥取はこのように、様々な方々と協力して『地域経済のための何か』がやりやすいという、他にない強みがある。その強みが今後、多くの場面で發揮されることを願いたい」とした。

## 宇倍神社図柄お札も

きょうから、日銀鳥取事務所70年展示会

日本銀行鳥取事務所は13日、鳥取市国府町の宇倍神社が図柄印刷されている3種類のお札をはじめ、3億5千円分のお札の裁断くずで作った“ぜいたくなソフア”などを報道

陣に披露した。同事務所開設70周年記念として、同市栄町の「うぎ画」史跡、パネル約40点を展示する。

マにした展示会を企画。史料、パネル約40点を展示する。

お札の肖像で最も長く使われた歴史上の人

物・武内宿禰を祭神

とする宇倍神社は、紙

幣の図柄としては全国の神社の中で初めて採用。宿禰とともに同神社が印刷された1899年発行の「甲子五圓券」、

会場では本物の1万円札3万5千枚の裁断くずで作ったソファに座ったり、1億円相当の模擬紙幣(約10キロ)を持って記念撮影することでき、「お金持ちになった気分」を味わえる。

お札の裁断くずで作ったソファに座り、重さ10キロの模擬紙幣1億円相当を持つ女性職員。「自分のお金ならもっと軽く感じるのに…」=13日、鳥取市栄町のごうぎんギャラリー

916年発行)、今まで使える「いきうき券」(43年発行)など宇倍神社所蔵のお札などを紹介する。



同事務所は1945年10月15日に開設。大山陽久所長は「鳥取とお札との関わりは特に深い。展示会を通じ日本銀行が身近な存在になり、一緒に鳥取の発展に知恵を絞つていけたら」と話している。